



我が国の森林の5割強は広葉樹天然林です。これに対して、針葉樹人工林は、集約的経営への傾斜の中で果たして全て必要なのかという議論が起こっています。生物多様性を増進させる観点から、針葉樹人工林の針広混交林化、広葉樹林化が各地で試みられていると同時に、製材用素材の国産比率もここ数年向上し、国民の国産材志向は大きな高まりを見せています。しかし、広葉樹利用については、その重要性が認識されているにもかかわらず、広葉樹を軸とする森林政策は明確には打ち出されていません。



そもそも我が国では、燃料、生活資材全般の給源として広葉樹林を利用してきた長い歴史と多様な文化が存在します。本シンポジウムでは、「広葉樹ルネサンス」と題し、広葉樹の多様な利用を促進することを通じ、森林の総合的価値を引き出し、地域を活性化させる手法を提示することを目的とします。我が国に根づく森林との共生文化の継承と再生、そして文化・経済・環境が融合した新たな森林の価値の創造について議論したいと思います。このような議論により、大震災・原発事故を受けて、さまざまな場で議論されている「パラダイムの転換」について、森林地域、山村地域からの具体的なあり方の提案を目指します。



(写真提供:左上 中澤健一氏、右上 天野智将氏、左下、右下 辻 隆洋氏)

国土緑化推進機構助成シンポジウム

# 広葉樹ルネサンスで、

# むら・まちを活かす

前半

13:15~14:45

●総論 広葉樹ルネサンスとは



土屋 俊幸 氏

東京農工大学大学院教授

●広葉樹材の利用を巡る状況



天野 智将 氏

森林総合研究所東北支所グループ長

●広葉樹の多角的利用



田島 克己 氏

NPO法人秩父百年の森 副理事長

日時

平成 23年 10月1日(土)  
開場: 12:30 / 開演: 13:00

場所

東京大学弥生講堂  
一条ホール  
地下鉄南北線「東大前」徒歩1分

入場無料

どなたでも参加できます

主催

「広葉樹ルネサンスで、むら・まちを活かす」シンポジウム実行委員会

後援

林野庁、(一社)日本森林学会、林業経済学会、(独)森林総合研究所、(独)農林漁業信用基金、サントリーホールディングス(株)、全国森林組合連合会、日本製紙連合会、(公社)大日本山林会、(一社)全国林業改良普及協会、(社)全国木材組合連合会、(一社)日本森林技術協会、(社)日本林業経営者協会、(社)日本林業土木連合協会、(財)日本森林林業振興会、(財)日本木材総合情報センター、(財)日本緑化センター、(株)林業調査会、『緑の循環』認証会議、NPO法人自然環境復元協会

注 (公社): 公益社団法人  
(一社): 一般社団法人

後半

15:00~17:45

座談会 16:15~17:45

●里山広葉樹活用プロジェクト



中澤 健一 氏

FOE Japan / フェアウッド・パートナーズ担当

●アメリカ広葉樹の有効利用とエコファニチャー



辻 隆洋 氏

アメリカ広葉樹輸出協会日本代表

座談会座長

野口 俊邦 氏  
信州大学名誉教授



事務局・お問い合わせ

財団法人 林業経済研究所 (担当: 餅田・大塚) TEL: 03-6379-5015

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A E-mail office@foeri.org URL http://www.rinkeiken.org/

# 広葉樹ルネサンスで、 むら・まちを活かす



(田島克己氏提供)



(土屋俊幸氏提供)

● 我が国の森林の5割強は広葉樹天然林です。これに対する針葉樹人工林は、集約的経営への傾斜の中で、今ある針葉樹人工林面積が果たして全て必要なのかという議論が起こっています。一方、生物多様性を増進させる観点から、針葉樹人工林の針広混交林化、広葉樹林化が各地で試みられていると同時に、製材用素材の国産比率もここ数年向上し、国民の国産材志向は大きな高まりを見せています。しかし、広葉樹利用については、その重要性が認識されているにもかかわらず、広葉樹を軸とする森林政策は明確には打ち出されていません。

● そもそも我が国では薪炭をはじめ生活資材全般の給源として広葉樹林を利用してきた長い歴史と多様な文化が存在します。そこで、本シンポジウムでは、「広葉樹ルネサンス」と題し、広葉樹の多様な利用を促進することを通じて、森林の総合的価値を引き出し、地域を活性化させる手法を提示することを目的とします。我が国に根づく森林との共生文化の継承と再生、そして文化・経済・環境が融合した新たな森林の価値の創造について議論したいと思います。このような議論により、大震災・原発事故を受けて、いま様々な場で議論されている「パラダイムの転換」について、森林地域、山村地域からの具体的なあり方の提案を目指します。

● これまで、当シンポジウムでは、国有林、国立公園のあり方、木質バイオマス利用、「ウッドニューディール」、森林・林業再生プランなどをテーマに議論してきました。今回は、これまであまり取り上げられることのなかった、広葉樹の多様な利用形態に着目して検討を行おうと企画しました。

● これまで広葉樹材を工業的に使ってきた東北、北海道の現状と資源構成からみた広葉樹林の今後の経営方向を天野智将氏から、埼玉県秩父地方で広葉樹の多角的利用に取り組む地域のNPOの取り組みを田島克己氏から、また、従来から広葉樹の総合的利用に実績を持つ宮崎県諸塚村における国際的NGOによる新たな活用プロジェクトの実績について中澤健一氏から、さらに広葉樹材の家具利用の可能性についてアメリカ産広葉樹の事例を中心にして辻 隆洋氏から報告いただき、野口俊邦氏の進行により総合的な議論を行ない、所期の目的に近づきたいと思えます。

## プログラム

- 12:30 受付開始  
13:00 シンポジウム開始
- 13:00~13:05 開会のあいさつ(永田 信 東京大学大学院農学生命科学研究科教授)  
13:05~13:35 土屋 俊幸氏(東京農工大学大学院農学研究院教授)  
「総論 広葉樹ルネサンスとは」  
13:35~14:05 天野 智将氏(森林総研東北支所森林資源管理研究グループ長)  
「広葉樹材の利用を巡る状況」  
14:05~14:35 田島 克己氏(NPO法人秩父百年の森副理事長)  
「新たな森林資源ーカエデ樹液の活用による山・里・街連携創出の試み」  
14:35~14:55 休憩  
14:55~15:25 中澤 健一氏(国際環境NGO FOE Japan 森林  
/フェアウッド・パートナーズ担当)  
「里山広葉樹活用プロジェクトー諸塚村を事例として」  
15:25~15:55 辻 隆洋氏(アメリカ広葉樹輸出協会日本代表)  
「アメリカ広葉樹の有効利用とエコファニチャー」  
15:55~16:15 休憩  
16:15~17:45 座談会  
座長 野口 俊邦氏(信州大学名誉教授)  
17:45~17:50 閉会のあいさつ(林業経済研究所)  
18:00~20:00 懇親会

終了後、18:00より懇親会を予定しています(社会人3,000円、学生1,000円)。

## 会場地図



どなたでもお気軽にご参加ください。

## 実行委員会

土屋 俊幸/大塚 生美/関 良基/永田 信/  
満田 夏花/餅田 治之/安村 直樹/山本 美穂  
会場・運営協力:東京大学林政学研究室

事務局・  
お問い合わせ

財団法人 林業経済研究所(担当:餅田・大塚)

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A TEL:03-6379-5015  
E-mail office@foeri.org URL http://www.rinkeiken.org/